

- ・田野畑村交流事業
- ・平成 26 年度活動カレンダー
- ・情報メディア対応事業
- ・第 2 回青少年育成セミナー
- ・調査・研究報告
- ・青少年なやみ相談室 PR
- ・各種お知らせ

青少年 いわて 3 2015

平成 26 年度 『頑張るいわての子どもたちの活動報告』

田野畑村 深谷市 小学生交流事業



平成 26 年 7 月 29 日（火）～8 月 1 日（金）の 3 泊 4 日、「田野畑村深谷市小学生交流事業」が開催され、埼玉県深谷市と田野畑村から 60 名の小学生が集まりました。毎年、深谷市と田野畑村を交互に行き来して行なわれる交流事業は、今年は田野畑村が会場でした。内陸部の深谷市の児童は、漁業体験やサッパ船アドベンチャーズなど海を中心とした事業内容に大喜び。また、津波語り部学習では津波の恐ろしさと後世へ語り継いで行くことの大切さを学びました。3 泊 4 日の様々な体験学習を経て、両市村の児童は友好を深め合いました。

（原稿提供：田野畑村青少年育成村民会議）



田野畑村・深谷市総勢 60 名の仲間達



平成26年度 活動カレンダー

「岩手県青少年育成県民会議（以下「県民会議」）」と「青少年活動交流センター（以下「センター」）」が平成26年度（2014年4月1日～2015年3月31日）に青少年の健全育成を目標に行ってきた主な活動や取組をカレンダー形式でまとめました。

平成26年(2014年)



4月 4/4 春の全国交通安全運動街頭啓発活動（センター）

5月 5/21 第1回県民会議理事会（県民会議）

6月 6/4 いわて家庭の日街頭啓発活動（県民会議）

6/15 第1回復興バザー（センター）

アイーナで館内の施設による東日本大震災の復興支援を目的としたバザーが開催され、およそ500名の来場者が訪れました。

6/25 県民会議通常総会（県民会議）

第2回県民会議理事会（県民会議）

県民会議表彰式（県民会議）

7月 7/5 みんなdeクッキング（センター）

19名の参加小学生とボランティア学生と一緒にサラダやドレッシング、ミネストローネ、そしてデザートを作り、別プログラムに参加していた保護者の方々と一緒に食べました。

7/7 第1回青少年育成セミナー（県民会議）

青少年の育成に関わる方を対象としたセミナーをアイーナで開催しました。東洋大学の教授を招待して講演を開催したり、青少年の育成について意見や情報を交換しました。

7/16 青少年を非行・被害から守る県民大会（県民会議）

主張大会や作文コンテストで受賞した二人の学生の発表や、専門家による子ども達を取り巻く問題に対する講演などをアイーナで開催しました。

8月 8/24 いわて親子・家庭フォーラム（センター）

住田町の農林会館で「食育」・「しつけ」・「情報教育」・「反抗期や思春期の子育て」の4つのテーマに沿った分科会や全体会を開催し、近隣の市町村から教育関係者等120名が参加しました。

8/28 第1回青少年相談事例検討会（センター）

通年事業

- ・ 青少年活動の場の提供・環境整備
- ・ 青少年ボランティア活動の促進
- ・ 青少年育成地域活動支援事業
- ・ 広報事業（広報紙/HP/SNS）
- ・ 青少年なやみ相談室の運営
- ・ 図書の貸出



復興バザー



みんな
de
クッキング



青少年育成セミナー



いわて親子・家庭フォーラム

9月 9/6 アイーナで学ぼう 2014 (センター)

参加した 12 名の小・中学生とその家族が、アイーナ館内施設の職場体験やエコ活動、防災学習などをして、社会とのつながりを学びました。



9/7 観武ヶ原まつり (県民会議)

盛岡市のみたけ地区で毎年行われているお祭りでかき氷店をボランティアの方々と一緒に出店し、来場した多くの方々に好評をいただきました。



9/18 わたしの主張岩手県大会 (県民会議)

県内の中学校から集まった18名の代表者が雫石町の野菊ホールで未来への夢や希望、または日常生活で感じたことなど、それぞれの想いを発表しました。

10月 10/1-19 絵画・ポスターコンクール作品展 in アイーナ (県民会議)

10/5 第2回復興バザー (センター)

いわて親子フェスティバル in アイーナ (センター)

“一日中アイーナで遊ぼう”をコンセプトに親子講座や工作教室、手形アート作成などを行いました。また、『復興バザー』も共催して2200名もの来場者がありました。

更に、ボランティアによる企画会議(5回)、実行委員会(3回)の開催など、事業を通じた研修や交流も行いました。

11月 11/1-3 いわて希望塾 (センター)

県内各地から集まった191名の中学生と25名の青年サポーターが国立岩手山青少年交流の家に集まり、『本格復興』をテーマに二泊三日の宿泊研修を行いました。

11/16 絵画・ポスターコンクール作品展 in 北上 (県民会議)

『いわて家庭の日』をテーマに県内の小・中学校等から募集した絵画作品の入賞作品展示会を北上市のさくら野百貨店で開催しました。

12月 12/15 年末年始特別警戒活動 (県民会議)

平成27年(2015年)

1月 1/8 おしごと発見ツアー 2015 (センター)



特集



平成27年1月8日、地域の仕事学講座として『おしごと発見ツアー 2015』が開催され、県内から14名の小学生とボランティア3名が参加しました。一日を通して行われたツアーは午前中にイオン盛岡店、午後に佐々長醸造株式会社を見学しました。イオンではレジ打ち体験等を行った後、2つのグループに分かれて、グループ毎に食料品の陳列や洋服の整頓作業などを体験しました。

また、佐々長醸造見学では、醤油や味噌の製造過程を見学し、大豆発酵に大きな樽を使用していることや味噌の熟成時にクラシック音楽を流す等、様々な発見をしました。参加した子ども達は皆、お店の方の説明をメモしたり、写真を撮る等真剣に耳を傾けていました。

2月

1/29 第2回青少年相談事例検討会 (センター)

2/18 第3回県民会議理事会 (県民会議)

2/23 インターネット出前講座 (県民会議)

2/27 第2回青少年育成セミナー (県民会議)

3月

3/8 - 22 防災・復興の取組展示 (いわて希望塾等のパネル展示) (センター)

3/15 国際交流シンポジウム (センター)

3/25 第4回県民会議理事会 (県民会議)



観武ヶ原まつり



いわて親子フェスティバル



いわて希望塾



いわて家庭の日

ポスターコンクール



おしごと発見ツアー2015



地域による情報メディア対応事業実施状況調査結果について

この調査は、地域の青少年（小学生～高校生）を取り巻く情報メディア環境の実態を把握するとともに、青少年をインターネット上の有害情報や SNS での被害などから守るための地域の取組状況について把握することを目的として実施。

1. 対 象：各市町村青少年担当課、各市町村 PTA 連合会、各高等学校 PTA、各中学校 PTA

314 団体・機関

2. 調査期間：平成 27 年 1 月 15 日（木）～ 2 月 6 日（金）

3. 回収状況：231 団体・機関（有効回収率 74.0%）

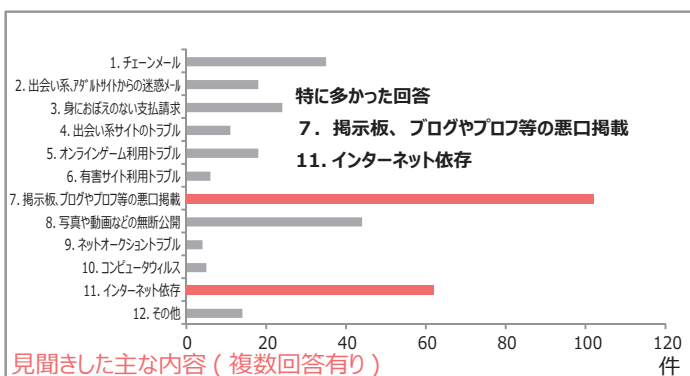
4. 実施主体：青少年活動交流センター・公益社団法人岩手県青少年育成県民会議



※設問の「インターネット」には、スマートフォン・携帯電話での利用を含みます

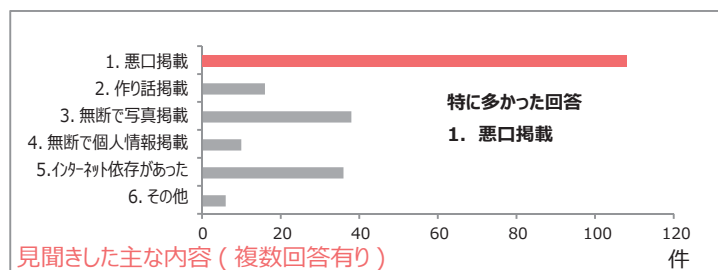
地域の青少年が、インターネットを使っていて、何か問題が発生したのを見聞きたことはありましたか。

- | | | |
|----------|-----------|----------------------------------|
| 1. はい | 125 (54%) | →『1. はい』と答えた方のみに内容について質問（下グラフ参照） |
| 2. いいえ | 81 (35%) | |
| 3. わからない | 25 (11%) | |



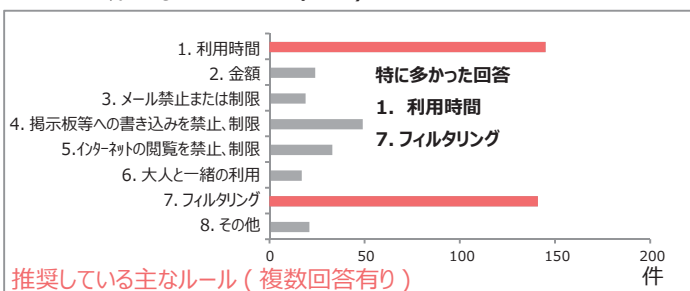
インターネットの SNS（Facebook、Twitter、LINE など）を使った、地域の青少年に対する誹謗・中傷、いじめ、いたずら等を、身近で見聞きたことはありますか。

- | | | |
|----------|-----------|----------------------------------|
| 1. はい | 119 (52%) | →『1. はい』と答えた方のみに内容について質問（下グラフ参照） |
| 2. いいえ | 90 (39%) | |
| 3. わからない | 21 (9%) | |

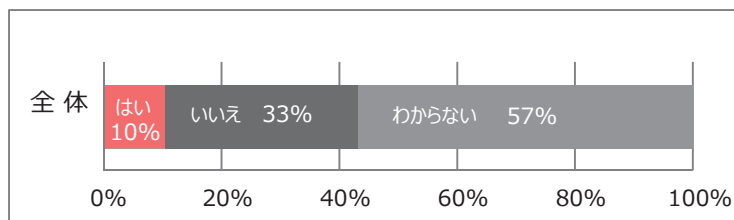


インターネットやメールの利用について、学校や家庭内でのルール作りを推奨していますか。

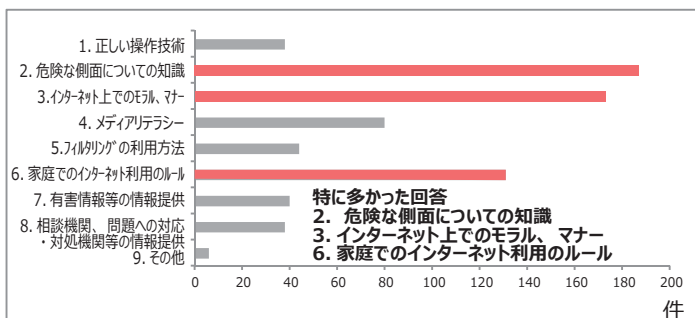
- | | | |
|----------|-----------|----------------------------------|
| 1. はい | 186 (81%) | →『1. はい』と答えた方のみに内容について質問（下グラフ参照） |
| 2. いいえ | 29 (12%) | |
| 3. わからない | 16 (7%) | |



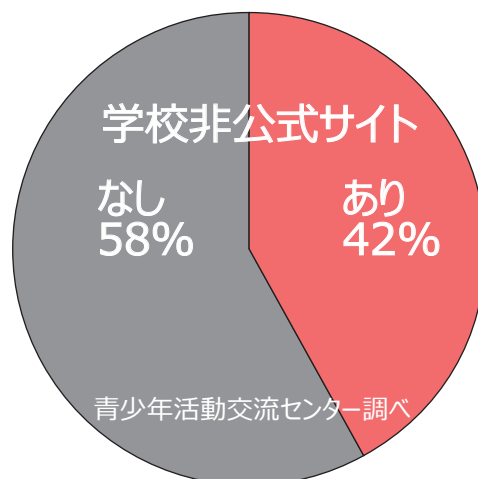
地域の学校に、学校非公式サイト（学校の公式ホームページ以外の学校の先生や友人の話題を書き込む掲示板など）がありますか。



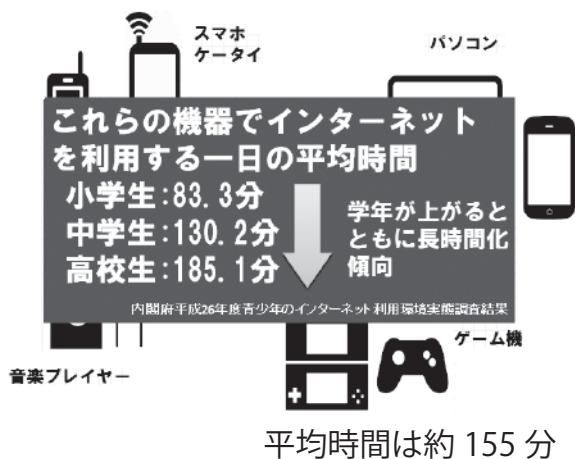
地域の青少年が、インターネット上の有害情報や SNS での被害などから身を守るため、今後特に必要とすることは何ですか。



青少年活動交流センターの独自調査によると、岩手県内中学校 170 校のうち、71 校の学校非公式サイトが存在することがわかりましたが、実際にはそれ以上存在する可能性が考えられます。



子どもたちのインターネット利用の平均時間



家庭

家庭でのパソコンやスマホの利用時間が長い
子どものインターネット利用状況を把握できる



家庭の果たす役割が重要です

- インターネット上のトラブルは見えにくい・気づきにくいことを理解しましょう
- 普段の生活でもしてはいけないことは、インターネット上でもしてはいけないことを教えましょう

→ 基本的なルールや一般的な社会の決まりや約束事

- 子育ての一環としてとらえ、利用状況を把握し、いけないことを行った場合にはきちんと指導をしましょう

- 子どもは親の姿をみています。まずは保護者自身が悪い見本となっていないか、見直しましょう。

- 直接的・双方向のコミュニケーションの重要性

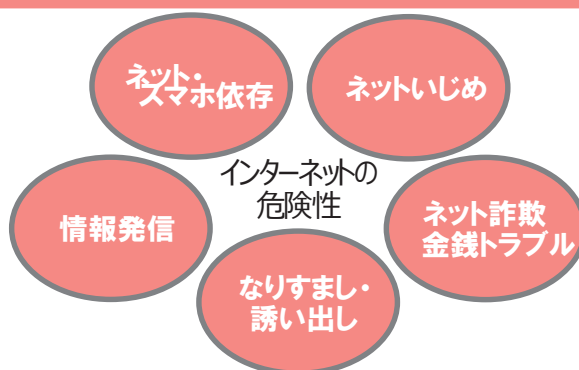
→ 普段の出来事やネットの使い方について、家族でよく話し合ひましょう。

情報メディア「出前」講座

謝金
不要

・ネット利用の現状と
問題点
・具体的な対応へのヒント

PTA関係者や保護者等からの要請に応じ、講師を派遣して、インターネットやスマートフォンを巡る青少年の現状への理解を深め、情報機器の正しく安全な利用が進むよう講座を開催します。



○出前講座の内容

要望に応じて、30分から90分程度の研修会等に講師を派遣します。

テーマ

- ・ゲーム・ケータイ・ネット利用の現状と問題点及び具体的な対応へのヒント
- ・ネットでのマナー、コミュニケーションの注意点
- ・より安全に使うための家庭でのルールづくり

- ① 派遣を希望する団体は、1か月前までにお申し込みください。

- ② 日程等を調整～研修実施

申込・問合せ先

青少年活動交流センター

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 アイーナ 6 階

電話 (019) 606-1763 FAX (019) 606-1765

メール ya-center@aiina.jp

ぜひ活用下さい!!

寄稿

奥州市水沢青少年育成市民会議
会長 阿部靖彦



昨今、以前には考えられないような残忍で不可解な事件・事故に青少年が加害者として大きく関わっているニュースを耳にする。しかもそれは大都会のみならず、ごく平凡な地方都市においても例外ではない。

インターネットやモバイル通信の普及に伴うSNSによる2次元的な対人関係、有害DVDやゲームによる非現実映像の氾濫。これらが発達過程にある青少年の心に与える影響は計り知れない。規制が追い付かず家庭や教育現場でも極めて大きな問題となっている。

また少子化や核家族化による世代間交流の著しい減少も原因の一つと考えられる。価値観の同一なグループだけを『仲間』として、単調なコミュニティを形成し、異質な他者を受け入れる度量がない。異質な他者と接する機会さえ極端に敬遠する。もしかしたら私のような親世代も既に同様の環境にあるのかもしれない。家族の保護下において学校という傘の下に守られているうちは問題なく過ごせても、ひとたび実社会に出れば、対人関係の煩わしさに悩み苦しんでしまう。行き過ぎた個性至上主義とコミュニケーション能力の低下の結果である。

コミュニケーション能力や公共心・規範意識は、生きる力、すなわち『人間力』の重要な構成要素である。知力や体力だけで複雑な現代社会を生き抜くことは極めて難しい。

私たち地域の大人は、これからも子供たちが心豊かに逞しく育つ環境づくりのためにより一層力を注がなければならない。とりわけ世代間交流の活動の支援に重点を置きたい。町内会活動や地域のお祭り、趣味や特技の分野、各種ボランティア活動など交流の機会はたくさんある。子供のいる世帯もそうでない世帯も地域の子供たちを温かく見守り、深く関わり、共に学びながら地域丸抱えで地道に取り組んでいこう。私たちの活動には答えもゴールもないのだ。

(岩手県青少年育成県民会議理事)

第2回

青少年育成セミナー

日 時：平成 27 年 2 月 27 日 10:00~16:00
場 所：いわて情報交流センター（アイーナ）
5F 501A 会議室
参加人数：29 名

今年度二回目の青少年育成セミナーは、情報メディア対応研修会と併催で開催しました。午前中は、県民会議と国立岩手山青少年交流の家からの事業の説明があり、その後参加団体の皆さんから来年度の事業の情報提供をしていただき、相互の連携について協議を行いました。午後は、特定非営利活動法人教育研究所理事長の牟田武生氏による講演を拝聴し、参加者全員がとても良い講演だったと高評価をする内容でした。

その後、県民会議から情報メディア対応指導プログラムについての説明を行いました。

特定非営利活動法人
教育研究所 理事長
牟田武生氏



講演「ネットを居場所としている子ども達」～その背景と解決のヒント～（要約）

携帯電話やパソコン等のネットの依存は、高校生の割合が非常に高くなっている。特に「**病的な使用**」とされた割合は、女子高生が 9.9%、男子高生が 6.6%と女子の方が多い。

ネットを長時間使うようになって、現実社会が疎かになり、仮想社会がどんどん強くなってしまふ。うつむいて、耳に栓をして、歩いたり、

電車に乗っているのは日本だけの現象。自分の世界に入ってしまった、人と交わることを拒否している。本当は人と交わりたいけれど、傷つきたくないから距離を持って匿名の社会で生きていく。

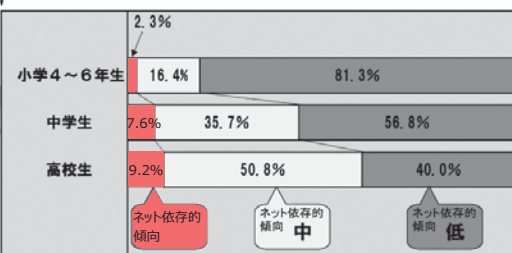
るのに数年かかる上、興奮し暴力行為がしばしば起こる。また、オンラインゲームの特性として、課金システムやアイテム販売があり、家族の現金やカードを無断で使うこともある。

匿名社会は、人間関係が希薄であり、孤立化している。子ども達同士の人と人との結びつきがすごく弱くなっている。これは、地域社会に壊滅的な打撃があると思う。他の国では、現実の人間関係の方が楽しいし、教会やクラブチームなど、学校以外の居場所がある。日本でも、地域や地方を愛して、人との繋がりを持ち、そこにお金が行き渡るような仕組み、地域創生をしていく必要がある。若い人達がわって集まって、パソコンなんかやっているのが馬鹿馬鹿しい、こっちで何かみんなでやっている方がよほど楽しいとなっていくような盛岡にしかできない地域活性化をしていかなければいけない。また、障害のある人を全て抱え込んでいく、**インクルージョン**という考え方も必要である。現実社会にうまく適応できなかった人は、適応できない自分を責めると辛いから他罰的になり、原因を社会や経済や人が悪いと批判する。ネットの中だけで、己の主張ばかり言う。それにネットの中の人と同調する。その中心がいわゆるひきこもりのネット依存の人だったりする。しかし、その人達を排除せずに、インクルージョンしなければいけない。

ネット依存になる背景は、日本独特の特異な体質がある。希薄な人間関係、現実社会への回避、責任性を問われない自由な社会、低コスト。規制の無い社会である。規制の無い社会は、ネット社会だけ。ネット社会は、誰も見えないので、いじめが起きてても仲裁者が育たない。だから、ネットのいじめは深刻である。しかし、その仮想の社会に何故はまるかというと、現実社会の人間関係のトラブルを恐れている、何でも言い合える友達が少ない、現実社会の仕事や立場に不満がある、などの背景があり、逆にネット社会での友人や仲間がどんどん増えていき意気投合し、社会的評価が高くなっていくことで、ネットの関係は現実の人間関係より大切となっていく。現実社会とネット社会の関係の不等号の向きを逆にすることができればネット依存から抜けられる。

また、子どものネットの環境を便利なものの、高性能なものに変えることはせず、家族での会話を増やし、現実社会の人間関係を大切にしていける必要がある。

青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査 総務省情報通信政策研究所)



■ 本調査はオンラインアンケートでの調査
■ ヤング博士の20項目の尺度 (Young20) に従い、得点を算出し、「70点以上(ネット依存の傾向高)」、「40-69点(ネット依存の傾向中)」、「120-39点(ネット依存の傾向低)」という形で3区分に分類。
■ 「ネット依存傾向」の得点が高いことをもって、治療が必要となる「ネット依存」である訳ではないことに留意することが必要。

コミュニケーション依存でメールのやり取りによって依存していく女子に対して、男子はオンラインゲームを中心としたゲーム依存である。夜遅くまではまり込んで、学校には行くが寝てしまう。家に帰ったらまたオンラインゲームをやる。生活リズムが完全に崩れて、学校に行けなくなる。不登校から学校を辞めて、そのままひきこもってゲームをやっている。その後 20 代になり、職場でうつ状態になって仕事を休んでいるのにプライベートでは元気に遊び回る「**新型うつ**」となることもある。そして、そのような「**新型うつ**」は、現実のリアルな遊べる所がある都会より、田舎の方が多い。

また、日本は子どもを商品にする社会だと思う。他の国だと青少年の問題は、未来の国を背負う問題だから、非常に重要な項目である。日本は、10 代の女性アイドルが、ヘそを出したり、お色気で売り出してテレビに出ている。他の国では考えられない。韓国では、政府が未成年者のゲームに関して時間制限という制度をつくり対策を取っている。

日本では、ゲーム依存から本格的な不登校、ひきこもりになっている事例が、最近増えてきている。不登校の内容が、以前は不安や緊張のために対人関係がうまくいかない「**情緒混乱型**」の人が多かったが、今は「**無気力型**」が多い。これには、ネットの影響があると思われる。人間は、ひとりでいたい時と誰かと一緒にいたい時の二つの欲求がある。しかし、ひとりでもネットで繋がっていると孤独がない。リアルな世界では孤独に見えるけれど、孤独ではない人たちがいる。特にオンラインゲームは、どんどん新しい物が提供されるから、エンドレスゲームであり、依存性が非常に高い。一度はまると思われ

ネット依存への対応

- ・前提「ネットゲームは依存性の強いゲームである」という認識を社会・本人・家族・学校が持つ
- ・環境整備は行わないこと。
- ・18歳までは自宅でインターネットが接続できないようにする。(無線LANは家庭では使わない)
- ・大学生もデスク型は使わず、ノート型パソコンにする。なるべく、インターネット(情報処理)などの専門の勉強する以外は旧型、低性能のものを買い与える)
- ・接続回線も大容量の情報を素早く送れる光ケーブル等は契約せず、ADSLなどで充分である。
- ・パソコン2台目の外付けのハードディスクなどの付属物は買わない。

青少年育成県民会議の 今後の在り方に関するアンケート



実施期間：平成 26 年 10 月 29 日（水）～ 11 月 28 日（金）

実施対象：県民会議団体会員（86 団体）

回 収 率：51%（44 団体）

今回、県民会議団体会員の皆様に青少年を取り巻く環境と県民会議の在り方についてアンケート調査を実施しました。

1. 青少年を取り巻く環境等について

《質問項目》

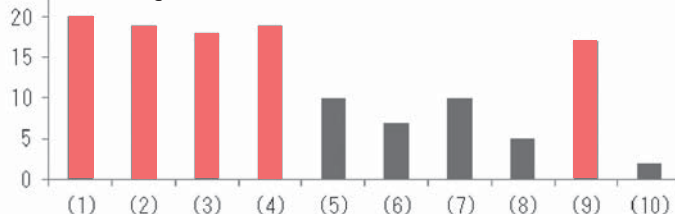
- Q1. 現在の青少年を取り巻く環境についてどうお考えですか。
- Q2. Q1 で『良い環境である』『どちらかと言えば良い環境である』と答えた方にお尋ねします。『良い環境である』と判断した理由は何でしょうか。（5 つまで選択可）
- Q3. Q1 で『良い環境ではない』『どちらかと言えば良い環境ではない』と答えた方にお尋ねします。『良い環境ではない』と判断した理由は何でしょうか。（5 つまで選択可）
- Q4. Q1 のお答えに関わらず皆さんにお尋ねします。青少年を取り巻く環境に少しでも厳しいものがあると考える場合、その原因としては何が考えられますか。（5 つまで選択可）
- Q5. Q4 の環境悪化の原因をいくつかでも改善・解消していくためには、どのような対策が必要と考えられますか。（5 つまで選択可）

青少年を取り巻く現在の環境に対して、『良いとは言えない』『どちらかと言えば良いとは言えない』との回答が全体の 70.5% を占めており、その理由としては、『各分野での二極化の進行』『少子高齢化による若者の負担の増大』『非正規就労の増加など雇用・労働環境の悪化』『社会生活上の困難を抱える若者の増加』『ゲーム、スマホの普及とコミュニケーション能力の低下』が高い割合を占めています。（図 1 参照）

また、青少年を取り巻く環境が悪化している原因としては、『少子高齢化の急速な進展』『都市への集中と地方の過疎化』、次いで『インターネット社会の到来』『価値観の多様化と個人主義の伸長』が比較的高い割合を占めており（図 2 参照）、そうした環境を改善していくために必要な対策としては、『若者の働く場所の確保と高齢者が社会貢献できる仕組みの構築』が最も高い割合（20.3%）を占めています。

件

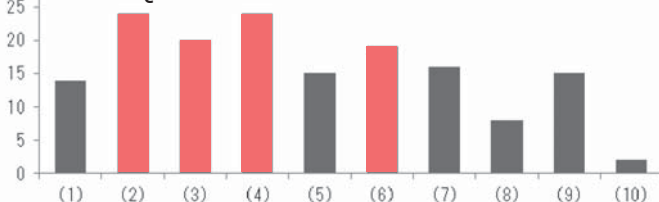
図 1. Q3 の結果に対するグラフ



- (1) 収入、就業、学歴、家庭環境など、各分野で二極化とその固定化が進んできている
- (2) 少子高齢化が止まることを知らず、そのために若者の負担が大きくなる一方である
- (3) 非正規就労の増加、効率主義、成果主義など、雇用・労働環境が厳しくなっている
- (4) フリーター、ひきこもり、不登校など、社会生活上の困難を抱える者が増えている
- (5) 地縁、血縁のつながりが薄れており、助け合いの心や協力心などが欠けてきている
- (6) 自然や自由に遊ぶ場所が少なく、創造力や豊かな感性などが育ちづらい環境にある
- (7) 休日も塾や習い事等に追われゆとりがなく、じっくり考える時間が少なくなっている
- (8) 児童生徒の間でいじめがなくなり、SNS が普及する中でその被害も多く見られる
- (9) ゲーム、スマホ等の広範な普及などにより、青少年のコミュニケーション能力が低下している
- (10) その他（具体的に記載下さるようお願いします）

件

図 2. Q4 の結果に対するグラフ



- (1) 長期化する国内経済の停滞
- (2) 少子高齢社会の急速な進展
- (3) インターネット社会の到来
- (4) 都市への集中と地方の過疎化
- (5) 成果主義、効率主義の台頭
- (6) 価値観の多様化と個人主義の伸長
- (7) 核家族化と共稼ぎ家庭の増加
- (8) 学校生活上での困難な状況
- (9) SNS 利用者の急速な拡大
- (10) その他

2. 県民会議の在り方について

県民会議の在り方に関しては、その活動状況や今後重点をおいて活動すべき分野などについて質問しました。

アンケートの結果によると、県民会議の活動については、『期待通りの成果を上げている』『どちらかと言えば成果を上げている』という回答が全体の 50% となり、『どちらかと言えば成果が上がっていない』『思うような成果が上がっていない』という回答が全体の 25% となりました。

『成果を上げている』と判断した理由としては、『青少年団体との連携が良好であり、連携のとれた事業展開を推進している』『イベントへのボランティアの参加や様々な研修を通じて人材育成に力を入れている』が比較的高い割合を占めており、一方、『成果が上がっていない』と判断した理由としては、『青少年団体との支援協力関係が弱まっており、県民会議の名に相応しい活動がない』『イベントや単発の研修はあるが、次代を担う人材を育成する継続

的な取組がない』が比較的高い割合を占めており、双方、全く逆の判断となっていました。何れにしても『**青少年団体との連携**』と『**次代を担う人材の育成**』がポイントとなっています。

『今後どのような分野に重点をおいて活動すべきか』については、『将来の社会を担う人材の育成の推進』『地域資源を活かし若者が地域に誇りを持てる活動の推進』が高い割合を占めており、次いで『社会生活上の困難を抱える若者支援の推進』『多様なネットワークの構築と連携のとれた事業推進』の順となっています。

これらの活動を進めるために県民会議に求められるものとしては、『**中長期の計画を策定し将来を見据えた活動を推進**』『**関係団体との連携交流が深まるような活動を推進**』が高い割合を占めており、両方で全体の 68.1% となっています。

青少年なやみ相談室

「青少年なやみ相談室」では、電話・面接・メールによる相談を受け付けています。相談者の約 7 割は青少年で、その相談の多くは電話とメールで寄せられます。

相談の内容は、不登校などの学校生活に関わるもの、交友・親子関係の問題、インターネット使用の際のトラブル、自身の生き方について、今考えていることなど、多岐にわたります。また、安心して話せるようにと、匿名での相談を受けています。

私たち相談員は、お話を聴き、共に考えながら、相談者ご自身が、自らの力で納得のいく解決方法を見出していくことを信じ、支えていきたいと考えています。



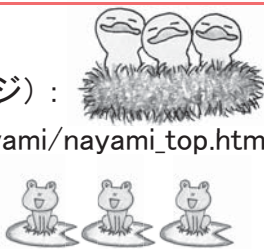
相談室 HP& ブログ

青少年なやみ相談室（ホームページ）：

http://www.aiina.jp/seishounen/nayami/nayami_top.html

相談室だより（goo ブログ）：

<http://blog.goo.ne.jp/ya-nandemo>



相談時間（電話・面談）

9：00～16：00

（月・木のみ 9：00～20：00）

※ 面談は予約が必要です

メール受付時間（24 時間）
nayami@aiina.jp

QR コード



岩手県青少年育成県民会議 「会員・協賛企業」募集

県民会議では、新規会員及び協賛企業を募集しています。次代を担う青少年の健全な育成を共に目指しませんか。

1. 会員

会員には、県内各地で開催されるイベントやシンポジウム等にご案内するほか、青少年に関する各種資料等をお送りします。

区分	形態	年会費
正会員	個人	3,000円
	団体(法人)	6,000円
賛助会員	個人	一口 12,000円以上
	団体(法人)	一口 25,000円以上

2. 協賛企業

県民会議 HP バナー広告、広報紙『青少年いわて』への広告、県民会議封筒への広告を有償で掲載させていただきます。

詳しくは、県民会議事務局までお問い合わせください

ホームページ ★

（公社）岩手県青少年育成県民会議

<http://www.ipayd.server-shared.com>

（※ホームページアドレスが「変更」になりました。）

青少年活動交流センター

<http://www.aiina.jp/seishounen/>

アイーナ 青少年

検索



SNS（お友達・フォロワー募集中）

facebook：青少年活動交流センター / Ya-center Aiina

twitter：ya_center



情報発信中

県民会議やセンターでの活動の様子や募集事業などを様々な手段で皆さんにお知らせしています



頑張る「いわての青少年」を
応援します！

2016
広げよう 感動。伝えよう 感謝。



希望郷 いわて国体
第71回国民体育大会

希望郷 いわて大会
第16回全国障害者スポーツ大会